

2021/4/13

(うと Q 世話し ちょっとした悩み事)

「海のものとも山のものともつかない」

どういう訳か、ふと、そんな言葉が頭の中を過(よぎ)りました。

要するに、得体が知れず正体不明で訳の分からない代物(しろもの)の事です。

思うに、この表現の発祥は、大昔まだ物々交換だった頃か、今ほど情報が発達していなかった時代に、交換場所や市場に持って来られた産物が、海から来た幸なのか、山から来た幸なのか判然としない時代に生まれたことに由来するのではないかと推察しております。

ところが現代の我が国では、そういったものは皆無と言っていいくらいで、反対に食品衛生表示法に基づいて、何が何g、何は入っているが何は入っていないと、たったあれだけのスペースによくもまあこれだけ事細かに書けるものだと驚いてしまうほど、てんこ盛りの情報記載がなされております。中にはそれを作った人の顔写真まで付いて。

それらの表示を見ていると、

「いったい自分は今から何を食おうとしているんだっけ？」

と混乱が生じてしまう時すらあります。

自分のお店の食材に関しては絶対そんなことはありませんが、自分の私生活においては、消費期限はある程度気にはするが、賞味期限に至っては「型落ちによる安さ優先」で、むしろそれを狙って買っているほどです。

私生活においては、物にもよりますが、消費期限すら気にしないで買うものもあります。主に干物(かんぶつ)系やルーなどの火を通せばどうってことなさそうなものですが。というのも独り暮らしの自分みたいな爺さんが一匹、毒気に当てられて死のうが死ぬまいが、世の大勢には全く影響なさそうだし、第一勿体ないからです。折角この世に生を受けた食べ物、このまま葬り去られるのも可哀想だし。

それはさておき、こういった表示法や賞味、消費期限の記載は、安全安心、健康志向に基づくものではありませんが、その元は単位面積当りの農産物の収穫量を増やす為に除草剤や早成剤等の農薬を矢鱈と使ってきた弊害に対する save and guard として生まれたものと理解をしております。

では、なぜその様なことが起きたのか？

一つには農家の実入りという経済上の問題もありましょうが、それ以前に地球規模で人口が爆発的に増え、それらの食い扶持を賄うには、自然栽培農法が供する量だけでは全く足りなくなった事が第一の原因であろうと思っております。

要するに、早く、沢山、何回も作らなくてはならなくなった。

そのため、農薬以外にも、耕作地を広げる事が求められ、耕作地にどんどん変えていくために逆比例して、森林をどんどん伐採した事が遠因となり、それが CO2 の吸収量を減らし、現代の温暖化傾向の一因ともなっている様な気がします。

そうやって辿っていくと、事の始まりは「人口の爆発的急増」にある様な気も致しますが、

無論、だからと言って人道上、人の数を強制的に減らす訳にも参りませんので、どうしたものかと頭を悩ませております。